

2026年3月9日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 田辺 有輝

ヨルダン・ハシェミット国アカバーアンマン海水淡水化送水事業
(海外投融資)
環境レビューに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2026年2月20日(金) 13:57～16:36
- ・場所：JICA 本部（2階202会議室）及びオンライン
- ・ワーキンググループ委員：阿部委員、源氏田委員、鈴木（克）委員、田辺委員
- ・議題：ヨルダン・ハシェミット国アカバーアンマン海水淡水化送水事業（海外投融資）
に係る環境レビューについての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) ESIA 2025 Package 16点
 - 2) Assessment of New Desalination Plant Site 1点
 - 3) Renewables 5点
 - 4) 2022 ESIA package 32点
 - 5) 環境社会配慮文書の整理
 - 6) 【環境レビュー方針】ヨルダン・ハシェミット国アカバーアンマン海水淡水化送水事業（海外投融資）
 - 7) ≪案件概要説明：補足説明資料≫海水取水・塩水排水施設の変更
 - 8) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2022年1月）

全体会合（第177回委員会）

- ・日時：2026年3月9日(月) 13:58～17:15
- ・場所：JICA 本部（2階202会議室）及びオンライン

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 有害物質が流出する可能性のある周辺施設の想定される事故とその対応策に関する情報を入手し、海水淡水化プラント等の施設の事業継続への影響と対応策を融資契約前に確認すること。

環境配慮

2. サンゴ礁については、Critical Habitat とされていることから、今後策定される Biodiversity Action Plan 等において、移植後の生残率の見込み、移植方法、移植場所等について確認するとともに、移植後は、海水淡水化施設からの排水による残されたサンゴへの影響も含め 5 年程度のモニタリングを行うことを実施機関に申し入れること。
3. 今後策定される Biodiversity Action Plan 等の中で詳細が決定される生物多様性ネットゲイン（サンゴ礁、藻場等）及び生物多様性ノーネットロス（陸域の生態系等）について、科学的な実現可能性を精査し、必要に応じて追加的な対策を講じるとともに、適切にモニタリングを実施するよう、実施機関に申し入れること。
4. 海水淡水化施設に関し、排水口の具体的な位置は今後確定することになるが、これまでのサンゴの分布状況に関する調査結果から水深 75m より深い場所での分布が少ないことを踏まえ、既存のサンゴ礁への影響を最小化するような位置となるよう実施機関に申し入れること。

社会配慮

5. 非自発的住民移転の被影響人数について、現段階で定量的なデータが入手できていない点を環境レビュー方針に記載すること。

ステークホルダー協議・情報公開

6. 住民への苦情処理メカニズムの周知は十分に行うことが望ましいため、想定されるネガティブな影響や工事日程を伝える際の通知文書に、苦情処理メカニズムの連絡先を書き込むことなど、住民各自に伝わる丁寧な伝達をするよう実施機関に申し入れること。

以 上